

令和6年度全国学力・学習状況調査における
北九州市立 篠崎 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

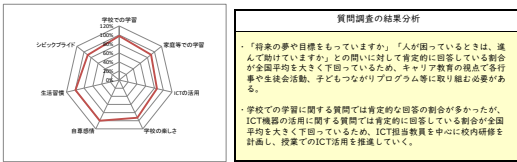
- (1) 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答率	平均正答率	平均正答率	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	読の理解を促す、内容を把握する問題や、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫する問題では全国平均を上回っている。一方で、情報と情報を結び付けて考える問題を苦手とする生徒が多い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	資料を読んだり使ったりして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫する「表現」や「考えの形成」に関する問題において、全国平均を上回っている。	上回っている
	努力が必要な問題	素直な結論について理解しているかを問う問題や、具体に抽象など情報と情報との関係について理解しているかを問う問題など、知識・技能を問う問題で全国平均を下回っている。また、読解を確実に身に付ける必要がある。	
数学	全体的な傾向や特徴など	「数と式」、「データの活用」の領域における思考力・判断力・表現力を問う記述式の問題で全国平均を大きく上回っている。一方で、「図形」の領域における証明に関する問題で全国平均を下回っている。また、読解等も全国平均を上回っている。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「数と式」の領域における事柄が盛り立つ理由を説明する問題と、「データの活用」の領域におけるデータの分布から四分位範囲を比較する問題で、全国平均を大きく上回っている。	上回っている
	努力が必要な問題	「図形」の領域における前向きを立てて考え証明したりする問題や事象を素の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな発見を見出すことを苦手とする生徒が多い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組
- 学校での学習に関する質問では肯定的な回答の割合が多く、協同学習や授業ユニバーサルデザイン、学びのプランに取り組んできた成果が表れたと考えられる。取組を継続し、発展させていく。また、現在の取組と併せてICTを活用し、学習効果を高める。
- ② 家庭生活習慣等に関する取組
- 家庭学習や家庭での生活習慣は安定しているが、スマートフォンやコンピュータ、ゲームの使用時間に関する質問では、全国平均を大きく上回っている。生徒や保護者にスマートフォンやSNSの正しい使い方についての発信を続ける。